

継電連動機動作記憶装置(YH-R形) SM4※※※-01

特長

- ◆ 継電連動機のリレー動作状態を記憶し解析できます。
- ◆ 記憶データは、機器室内で再生モニタ装置(パソコン)を接続するほかに、電話回線(モデム接続)やLAN(Ethernet)を介して遠隔地からでも取り込めます。(接続例は裏面にあります)
- ◆ 記憶内容は、盤面表示の他に再生モニタ装置で解析ができます。
- ◆ 電源を切断しても、記憶内容・内蔵カレンダー時計を48時間バックアップします。
- ◆ S幅はC形リレー2個分、W幅は4個分、WW幅は8個分のスペースにそれぞれ取り付けできます。



【YH-R形(S幅)】

定格および性能

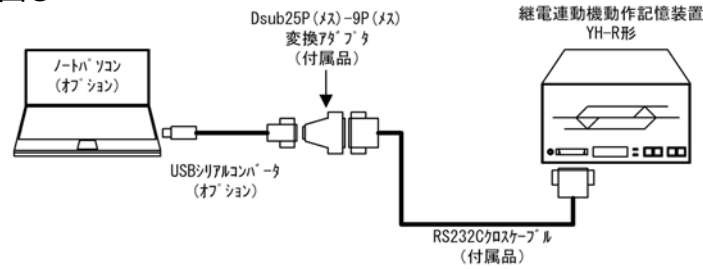
種 類	S 幅	W 幅	WW 幅
定 格 電 圧	AC100V		
消 費 電 流	2.5A 以下(定格電圧時)		5.5A 以下(定格電圧時)
最 大 入 力 点 数	128	256	564
リレー変化記憶容量	最大 345,000 変化		最大 690,000 変化
データ読出方法	盤面上に再現 / 再生モニタ装置(パソコン)		
寸 法 W × H × D	296 × 180 × 365 mm	596 × 180 × 365 mm	596 × 380 × 365 mm
質 量	11.5kg	21.0kg	33.0kg

・データ解析ソフトの対応 OS の詳細は別途お問い合わせください。

◆再生モニタ装置(パソコン)で記憶データの解析を行う方法は、「直接接続読出し」、「電話回線接続読出し」および「LANによる読出し」の3つの方法があります。

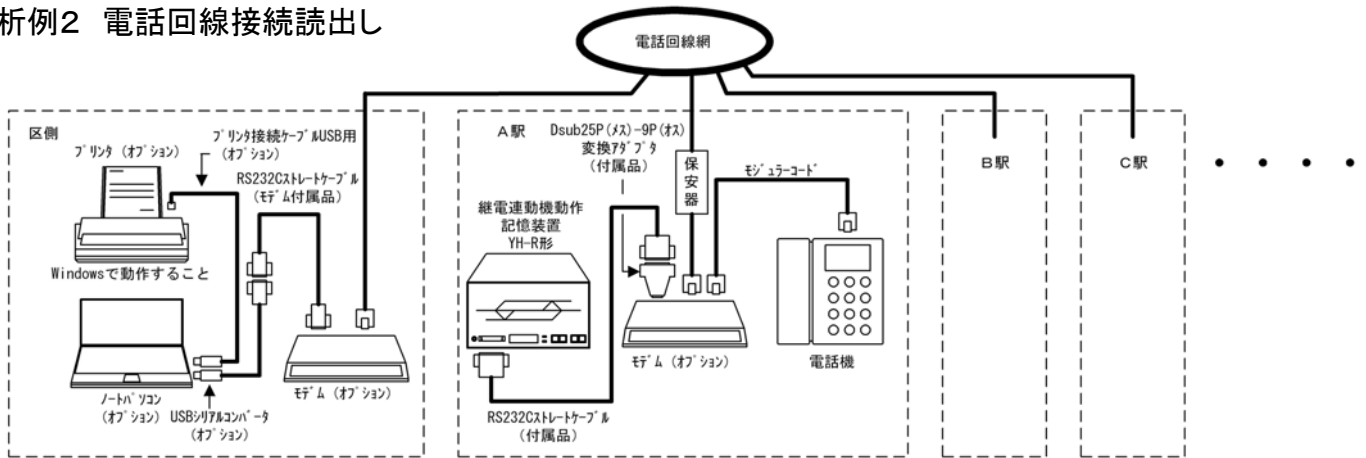
【解析接続例】

★解析例1 直接接続読出し



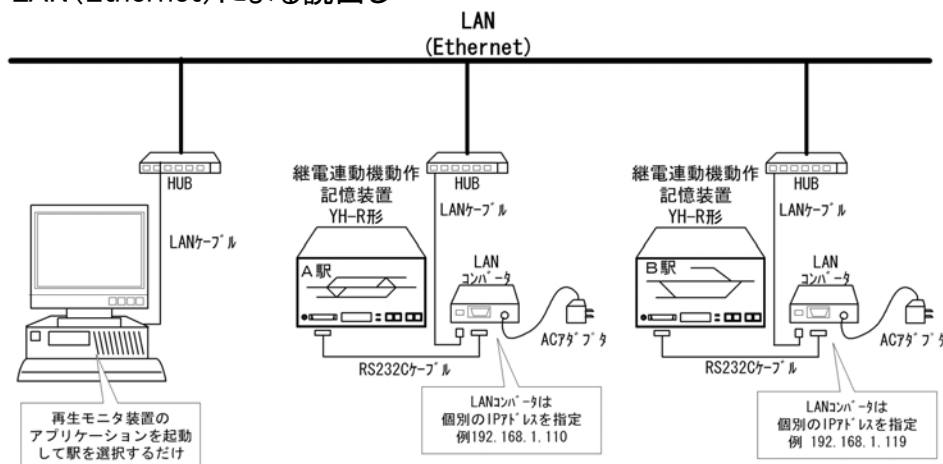
・直接接続読出しは、機器室に再生モニタ装置(パソコン)を持ち込み、継電連動動作記憶装置に直接接続して記憶データを解析する方法です。

★解析例2 電話回線接続読出し



・電話回線接続読出しは、各駅と区側のモデムを利用して電話回線網を介して記憶データを解析する方法です。電話回線を利用するため遠隔地からデータを読み出せるので、各駅まで行く必要がありません。
 ・区側の再生モニタ装置から各駅の電話を呼び出すことで記憶データを読み出すことができます。
 ※ 電話回線などの使用環境の問題で正常に伝送ができない場合があります。

★解析例3 LAN(Ethernet)による読出し



・LAN コンバータを利用することにより LAN(Ethernet)を介して記憶データを解析する方法です。
 ・LAN コンバータに個別の IP アドレスを指定すれば、区側の再生モニタ装置のアプリケーションを起動して駅を選択するだけで、記憶データの読出しが可能です。
 ※ LAN の使用環境の問題で正常に伝送できない場合があります。